

「死滅世代 紹介文」

岡和田晃

〈山野浩一未収録小説集〉

すでに山野浩一氏が「山野浩一WORKS」(ブログ)とFacebookで発表していることですが、現在、氏は癌で闘病中です。私はここ数年、『山野浩一評論集(仮題)』を編集しており、氏の原稿の収集につとめているのですが、その過程において、これまで単行本や文庫本に収録されていない中・短編小説・ショートショートを発見してきました。

そこで、恢復祈願を兼ね、〈山野浩一未収録小説集〉と題し、作者の許諾を得たうえで「SF Prologue Wave」にて単行本未収録の小説を紹介していきたいと思えます。

これを機に、山野浩一氏の仕事を、読み直していただけたら幸いです。なお、作品の歴史的な意義を尊重し、明らかな誤記・誤植を除いて、初出の表現をそのまま踏襲しております。

1 最初にお届けする単行本未収録小説は、「死滅世代」。これは「小説推理」(双葉社)一九七三年七月号に掲載された、四百字詰め原稿用紙換算で四十八枚ほどの作品。山野

2 浩一氏曰く、数少ない未来宇宙小説でストーリーテラーな作品ではあるが、非常に陰鬱なトーンが貫かれているがため、単行本に収録しようとする編集者に必ずはじかれた、とのこと。

山野氏には、むしろ今の読者に読んでほしいとの期待があり、そのため最初の採録となりました。いま読むと、伊藤計劃『虐殺器官』のような“救いのない”作品が広く受け入れられる現代の「世界内戦」を先取りしていますし、何より「死滅世代」の翌年に発表された「殺人者の空」(初出:『SFマガジン』一九七四年二月号、『山野浩一傑作集II 殺人者の空』創元SF文庫所収)に共通するモチーフが散見されます。いわゆるSFの保守本流たるスタイルに挑んだ「開放時間」(『宇宙塵』一九六六年四〜六月号、『山野浩一傑作集II 殺人者の空』所収)と読み比べるのも一興でしょう。

『SF Prologue Wave』採録にあたって、「死滅世代」の文字起しは柳剛麻澄、企画・監修は岡和田晃が担当しました。

その他、新刊で読める山野氏の小説としては、「X電車で行く」が『日本SF全集1 1957〜1971』(出版芸術社)に、「地獄八景」が『NOVA10 書き下ろし日本SFコレクション』(河出文庫)に、「メシメリ街道」が『日本SF短編50 2』

(ハヤカワ文庫JA) および『70年代日本SFベスト集成2 1972年度版』(ちくま文庫)に、「戦場からの電話」が『あしたは戦争 巨匠たちの想像力「戦時体制」』(ちくま文庫)に、「革命狂詩曲」が『暴走する正義 巨匠たちの想像力「管理社会」』(ちくま文庫)に、それぞれ収録されています。

『山野浩一傑作選I 鳥はいまどこを飛ぶか』、『山野浩一傑作選II 殺人者の空』(いずれも創元SF文庫)は流通在庫のみなのですが、電子書籍では普通に入手することが可能です。